

2021年度

オレンジリボン支援団体活動報告書

神戸市立愛垂児童館



管理番号

1606

2021年度のオレンジリボン運動活動報告

神戸市立愛垂児童館では、毎年11月にオレンジリボン運動に協力をしています。

- ① 今年度は、神戸市の広報紙で募集されていた、オレンジリボンのバッチを作るお手伝いを子どもたちが参加しました。細長いオレンジ色のリボンを、上記の絵のように「ばってん」にし、糸で止める作業で、高学年の女子が中心に作成し、神戸市に送付しました。
- ② また、11月にはオレンジリボン月間に協賛し、2020年は「すいすい☆チャリティバザー」2021年度は「すいすい☆チャリティフリーマーケット」と少し形式をかえ実施しました。保護者の方の収益の一部を、毎年オレンジリボン運動へ寄付させていただき、若い子育て家庭の皆さんが、「募金」という形式で参加できるこの事業は意義深いものです。※赤い羽根共同募金事業など、若い世代の「募金」や「ボランティア」という意識が減っている中、神戸市立愛垂児童館の年間通した「募金」という形式のボランティア活動は一定の効果をだして、「ひとのために」「こどものために」という気持ちの持ち方が今回のオレンジリボン運動においても生かされました。
- ③ コロナ禍で、事業の縮小化はいたしかたなく、2021年のフリーマーケット形式では、参加者が少し少なく、出店者も残念な気持ちの方がいました。事業の後の、アンケートでは「児童館の出店場所の立地（2階のため、人の通りが少なかった）が悪かったため、もっと募金をしたかったのに、収益が少なかったのが残念であった」という声も聞かれ、オレンジリボン運動への熱意が感じられました。
- ④ 頂いたマスクやチラシの配布にも、工夫をしており、「オレンジリボン運動」をもっと知っていただくため、児童館のFacebookなどのSNSで広く広報したり児童館前に掲示することで、若い子育て世代から高齢の方まで見ていただいたり、読んでいただく機会もありました。
- ⑤ 愛垂児童館では、「募金活動」を中心とした地域貢献をする中「震災や災害」への募金やウクライナの方が神戸に来られた時の生活支援のための募金など積極的な活動の際に、マスクやチラシをお渡しして、オレンジリボン運動の啓発を寄せてお願いしています。特に、最近話題になった「生理の貧困」にも児童館に頂いた生理用品を配布する際に、マスクやチラシを同封し、困ったときに連絡できる体制づくりなども意識しています。
- ⑥ 2022年は、大学生により、オレンジリボン運動への取り組みの企画、協力を貴NPO法人HPの活動から参考に実施を取り組んでいく予定です。



おうちの不用品を販売
して、その収益をオレ
ンジリボン運動へ募金
するのは、
若い子育て世代にやり
やすい募金活動



2022 年度オレンジリボン運動 活動計画

現段階で予定している企画等がありましたら、わかる範囲で、ご記入ください。

※頂戴しました情報は、当会による取材や当会ホームページへの掲載など、支援企業・団体の皆様との連携を促進するため活用させていただきます。

令和 4 年度の計画

- ① これから親になるであろう「学生」ボランティアを使ったイベントの企画づくり
- ② 若い子育て世代の保護者や子どもたちを巻き込んだオレンジリボン運動